

神奈川工科大学
防災・減災に向けた活動

神奈川工科大学(KAIT)の防災力

自治体、地域団体、住民と連携し、顔の見える関係を築きつつ、防災対策、SDGs対応、防災に関わる人材育成を進めています。

- 防災力① 堅固で、アクセシブルなキャンパス(被災者のストレス・物資の移動に配慮)の創造
- 防災力② 防災設備、災害時備蓄の充実、学生・教職員の”防災意識”の醸成
- 防災力③ 平時に地域の多様な方々、多世代との”つながりを積極的に推進

KAIT(カイト)は、神奈川工科大学のコミュニケーションネームです。

近年の災害に対するKAITの展開

2011年 東日本大震災における支援活動

2011年秋 厚木市と災害時協定(覚書)

2019年 地域連携災害ケア研究センター発足

2020年 地域連携・貢献センター発足

2021年～公開講座に「防災」シリーズ開始

2022年～産官民学の防災連携の強化を促進



東日本大震災直後から、KAIT車椅子修理屋サークルが東北へ出向いて活動を継続



災害派遣隊の宿泊地
災害派遣隊 車両基地
災害派遣隊 救助物資基地
市の指定避難所
学生ボランティア活動の支援



・キャンパス内のアクセシビリティ(合理的配慮済み)
・建造物の耐震化率 98.2%

諸活動の例



高齢者のウォーキングとハザードマップ点検



障害者防災プロジェクトが大学避難の検討会を開催



公民館内の聞こえ調査を住民と音響工学研究室にて実施



KAIT SDGs HUBサークルの学生は、大学備蓄品の試食会開催し、課題を検討

神奈川工科大学(KAIT)の防災力

地域連携災害ケア研究センターでは、危機管理、災害や防災の対策、SDGs対策、危機管理教育、人材育成を進め貢献しています。



地域連携災害ケア研究センター

地元市の災害対策に協働研究・実践の推進

■ 厚木市との災害関連の協働実践

連携先

- 厚木市長室
- 危機管理課
- 障がい福祉課
- 地域包括ケア推進課
- 障がい者基幹相談支援センター
- 地域包括支援センター
- 自治会連絡協議会
- 社会福祉協議会
- 県保健福祉事務所
- 企業

災害ケア研究センター管理室の活動

- ・災害ケアシンポジウムの開催
- ・防災対策・災害ケア基礎講座の開催
- ・地域連携災害ケアセンターの運営
- ・厚木市危機管理課との定例会議
- ・あつぎ防災体制の検討会
- ・あつぎ災害対応人材育成の検討会
- ・産学官民による災害ケアに関わる意見交換会
- ・KAIT SDGs HUBへの動きかけ
- ・「災害時の連携を考える かながわフォーラム」
- ・多様なニーズをもつ団体のKAIT防災設備等の見学対応

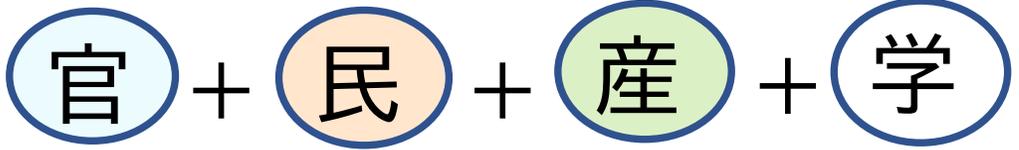


参加者と対等なラウンドテーブルにて、意見交換を継続している



災害時に全国の透析病院を支援するチームの本部がKAITに置かれている。

公開講座のリーフレット



地域連携に基づく、防災・災害時ケアの推進

神奈川工科大学の防災インクルーシブ・キャンパス <市民・学生・教職員のための防災準備・対策>

<< 非常時にも役立つ諸設備 >>

- ・AED設置 23棟
- ・レスキューベンチ設置 10棟
- ・多機能トイレ設置 17棟
- ・視覚障害者配慮サイン設置 約9割の棟
- ・スロープ無しで出入り可能なフラットエントランス 14棟 (他の棟は、バリアフリー基準に基づくスロープ設置)



KAIT広場

大学での避難生活
が長期化した場合
の余暇支援の機
能を果たすことが
期待される多機能
資源

附属図書館

KAIT工房

中央緑地公園

非常時に、重量車両が構内に入ることを想定して
中央緑地公園の舗装部分は高い強度を持っている。



中央緑地公園工事中の様子



完成した中央緑地公園



感染症等に係る一次
健康管理スペース



自家発電機/出力300kVA、K3号館(災害本部
予定)の全フロアに給電可能。給電時間をで
きるだけ延ばす準備をしている。

KAIT TOWN (災害時、医療機器等給電が必
要な避難者のための発電機設備がある。)



建物の耐震化98%
(2024年度100%達成予定)

K2号館(講義・事務棟)
災害対策本部が置かれる。

学内に3つの井戸をもつ。
地下受水槽(26トン)。
電力による送水ポンプ。
小型発電機は10台保有。

K1号館(情報学部棟)
非常時、多目的利用



大学の位置する地理・地層の環境

- ①海岸から約20km、標高約60m、最寄り河川との標高差
約25m。
- ②約7m下は礫(れき)層が地球深く続いており、強固な地盤。



秋の全学避難訓練集合場所

グラウンド(厚木市との防災相互協力覚書2013)

- ・災害派遣隊の宿泊地
- ・災害派遣隊駐車場車両基地
- ・災害派遣隊救助物資基地
- ・学生が行うボランティア活動の支援
- ・避難所として指定
(地元荻野地区区中自治会備蓄倉庫設置)



アリーナは被災者数多数の
場合で、実際は一時避難と
して環境のよいK3号館を使用
する予定

**アリーナ(厚木市指定避難所として使用予定の
避難所運営/地元区中自治会が運営)**



K4号館(看護医療棟)
看護学科、臨床工学科が置かれている棟。
日本災害時透析医療協働支援チーム(JHAT)本部
が置かれている。



K3号館(講義棟)
避難者の快適性、場所のわかりやすさ、支援
の利便性を考慮し、一次避難所と想定。



床面はカーペット敷き。机・
椅子は可動式で避難スペ
スになる。K3号館に6教室、
全学では約30教室あり。

非常用品備蓄倉庫/非
常時残留の学生・教職
員の3日間分を備蓄(食
料、毛布、使い捨てトイ
レ、他)。他に避難市民
用の備蓄を進めている。

備蓄食品の一
部

災害に備えた地域連携

<産官学民のトータル連携> 防災・災害ケアの地域連携・定例ミーティング



2021.11.30.



2022.06.17.



2023.10.27.

<分野別の連携> 教育・障害・高齢・自治会等との取り組み



厚木市、愛川、清川地区
小学校教員安全部会研修



厚木市障がい者協議会
防災プロジェクト



地元自治会避難訓練/地元中学校70名参加



高齢者の防災点検ウォーク/学生: スマホ操作の支援



<学内の取り組み> 学生の防災・災害ケアの意識向上 / 地域住民参加型



普通救命講習会をできるだけ多くの学生・教職員に受講促進
2023年12月1日・5日・13日・15日実施 (オンライン1h, 実習2h)
受講学生: 工学系21人、情報系20人、複数サークルから11人、職員1人。そして、地域住民の方5人。
合計58人が修了証を取得>

KAIT SDGs HUBの地域での活動と大学備蓄品試食会

防災・災害ケア 公開講座

